

③「語彙・文法説明」

本教材では、日本語能力試験 N1 合格に必要な語彙・文法の意味や用法が解説されています。語彙・文法項目の選定には、2009 年までの日本語能力試験出題基準や、『新しい「日本語能力試験」問題例集』（2009）、『日本語能力試験公式問題集』（2012）、その他の関連する市販教材を参考にした上で、本教材制作委員である日本語教師が経験的に「説明が必要」と判断したものや、学習者（すでに日本語能力試験に合格している者）から「説明する必要がある」と指摘があったものを中心に、本文に出てきた語彙と文法の解説を行っています。2010 年に改定される前の試験（以下、旧試験）の出題基準を参考にする理由は、ガイドブックにも「(N1 レベルは) 現行試験 (旧試験のこと) の 1 級よりやや高めレベルまで測れるようになります。合格ラインは現行試験とほぼ同じです。」とあり、そのレベルの基準は「選別の方針として以下の 4 点を定めた。ア 主に頻度を重視して採否を決める。イ 機械的に頻度の高いものから採用するのではなく、日本語教育経験者の視点も加える。ウ 旧試験の『出題基準』語彙表も参考にする。エ 最終的な語数は、日本人成人の獲得語数等を参考にした上で決定する」(押尾ら, 2008)とされており、現在の試験もまた旧試験の出題基準を参照すると明記されているからです。

より効果的な学習となるよう、学習項目を優先度の高いものに絞り込むため、日本語能力試験 N1 合格に必要な語彙・文法ではありながら、学

習者にとっては、基本的な語彙であり、読み方や意味の把握に支障をきたさない場合や、あえて説明が不要と判断された文法項目は説明を省略しています。

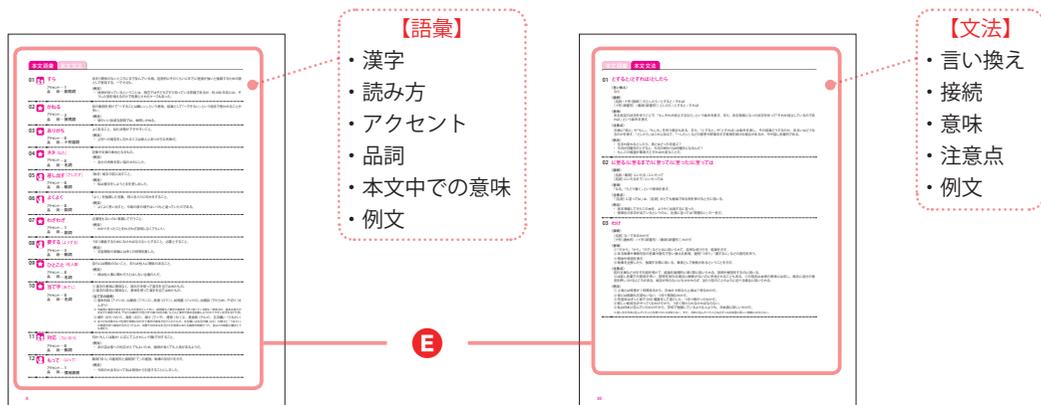
語彙の見出しには、それぞれの基準により選出されたものを以下のように示してあります。

- ①  2009 年までの日本語能力試験出題基準で 1 級とされているもの。【1 級語彙】
- ②  前掲の参考書、および、日本語教師が教育経験に基づき、解説が必要だと判断したもの。【教師選定】
- ③  すでに日本語能力試験に合格している学習者に調査を行い、学習経験に基づき解説が必要だと判断されたもの。【学習者選定】

※ただし、①と②または③が重複している場合は、①の「1 級語彙」とのみ示すこととし、②と③が重複している場合は、②の「教師選定」と③の「学習者選定」を併記しています。

※また、より効果的な学習となるよう、学習項目を優先度の高いものに絞り込むため、①の基準に該当する語彙であっても、教師・学習者が説明不要と判断した場合には、説明をつけないこととしました。

なお、語彙と文法の解説には、それぞれ下図の項目を設けています。



F「言語知識に関する設問」

日本語能力試験は主に、「言語知識・語彙・文法」「読解」「聴解」の三つの要素から成ります。本教材は前者二項目に対応するために、「言語知識に関する設問」を設けています。言葉の発音を問うものや、正しい表現の四択設問、あるいは、指定された言葉を用いて文を作る、方言と外来語に関する設問など、日本語能力試験に出題される形式以外にも設けてありますので、「語彙・文法説明」と併せて「言語知識に関する設問」を解きながら言語知識の養成に役立ててください。

G「内容理解」

日本語能力試験の「読解」では、本文の内容を正しく読めているかといった力も重点的に問われます。本教材の「内容理解」を解き、筆者の考えやその根拠、理由を自分がどの程度把握できたかを確認してみましょう。複数の選択肢から正しい答えを一つ選ぶ問題、本文の内容と合っているものをすべて選ぶ問題、また、記述式の問題など、出題形式はさまざまです。

H「発展活動」

「本文」ではベストセラー書籍の内容やその社会的背景の紹介および執筆者の意見が書評エッセイとして書かれています。「発展活動」では、これら「本文」に書かれた日本社会や日本人の考え方の多様性を踏まえた上で、そこから「自分の考えを持つ」「考える力を養う」ことをめざした活動項目に学習者自身が取り組みます。そもそも、言葉を運用するには「自分で考える」という姿勢と能力は不可欠です。本教材では、「本文」を読

解することにとどまらず、理解した事柄を用いて「課題」に対応し実践ができるように、「発展活動」の中に、「考える」タイプの活動と「調べる」タイプ、そして、「話し合う」タイプの活動を設定しています。

「考える」タイプの活動では、ベストセラー書籍の内容とその背景、また筆者の考え方を知らずというだけではなく、その一歩先に踏み込んで、「自分はどう考えるか」を問います。できるだけ学習者自身や学習者が生活する国や地域の問題に引きつけて考えられるようにしてありますので、一人でじっくり考えてから、対話したり発信したりしましょう。「調べる」タイプの活動は、書籍やインターネットなどで自主的に知識を深めることを目的としています。興味のある箇所は、自分で積極的に知識と理解を深めましょう。

なお、「発展活動」の解答には、“ヒント”として例を記述しました。“解答”として具体的なものを記してしまうと、逆に活動に枠を設ける結果となったり、考察や議論の発展を妨げる原因になったりしてしまうことが予想されるためです。あくまで自身の考えを深めるプロセスにおける一つの参考材料として参照してください。

I「コラム」

学習者の興味を重要視し、本文で述べきれなかったことの補足や、本文理解のために役立つ周辺知識等を紹介する文章です。「コラム」を読み、本文で扱われた流行語だけではなく、その周辺テーマへと知識を広げていきましょう。

「コラム」にも、「本文」と同様、「注釈」と「語彙・文法説明」があります。それぞれの目的や主旨などは「本文」と同様です。

The diagram illustrates the layout of the textbook pages. On the left, a page contains sections F, G, and H. On the right, a page contains section I. Red lines connect the labels F, G, H, and I to their corresponding sections in the textbook pages.